

巻頭  
連載

### 「職業実践専門課程」の意義を考える

－グローバル化社会を生き抜く職業人養成のために－

全国専修学校各種学校総連合会 顧問

学校法人敬心学園 理事長

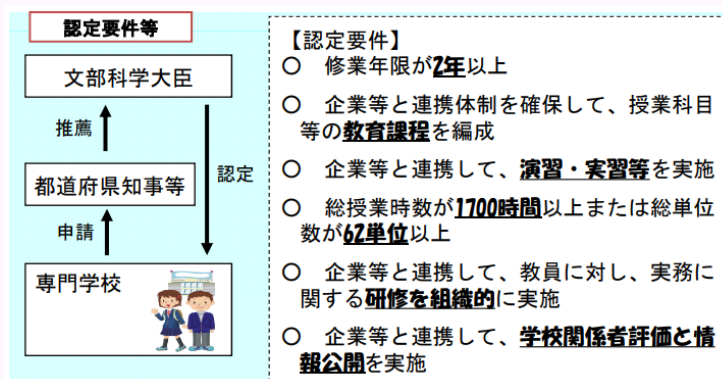
小林 光俊

#### 「職業実践専門課程」とは

平成26年4月から開始された「職業実践専門課程」。これは企業等との密接な連携によって、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を、文部科学大臣が認定するものです。各学校の申請と都道府県知事等の推薦に基づき、文部科学省による審査を経て認定されています。敬心学園が運営する5校（日本福祉教育専門学校、日本リハビリテーション専門学校、臨床福祉専門学校、日本児童教育専門学校、日本医学柔整鍼灸専門学校）もそれぞれの課程で認定を受けています。

この認定が開始され丸5年が経過し、徐々に定着してきていますが、これは職業教育を行っている専門学校にとってはかなり画期的な制度といえます。これまで専門学校は所轄庁である地方自治体の首長の認可を

受けて設置されてきましたが、「職業実践専門課程」は、国（文部科学大臣）によって認定されます。これまで日本における専門学校は国が認めた教育機関ではありませんでした。それが、国が直接認定し奨励していく方向に変わったことは大きな進歩であったといえます。



出典：文部科学省 ホームページ

『専門学校（専修学校専門課程）における「職業実践専門課程」の認定等（平成29年度）について』

#### 第10号の掲載内容

巻頭連載	1	職業実践専門課程の意義を考える－グローバル化社会を生き抜く職業人養成のために－ 全国専修学校各種学校総連合会 顧問・学校法人敬心学園理事長 小林 光俊
特集	3	第16回職業教育研究集会 兼 第10回公開研究会 開催報告 学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター
特集連載	6	【介護教育と方法論】介護ロボットへの対応 - 2 - 株式会社 健康データハウス 代表取締役・聖隷クリストファー大学 教授 大川井 宏明（職業教育研究開発センター 特別研究員）
連載	8	第2回 アクティブ・ラーニングを考える 学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター センター長 川廷 宗之
報告	10	インドネシア初の国家介護資格「介護エントリーレベル」創設に寄与 学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 杵淵 洋美
紹介	11	日本医学柔整鍼灸専門学校の取り組みのご紹介－上海中医薬大学と提携10周年記念式典開催－ 学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科長 青木 春美
告知ほか	12	第11回公開研究会 開催のお知らせ 「違う」って面白い！！～世代、国境を越えた介護・保育の実践～ 次号告知

### 認定が開始された背景

国際的には、18歳以上が受ける教育は高等教育（大学・短期大学・専門学校等）とされています。イギリスでは職業教育を高等教育と位置づけ、学位を出すことや、NQF（国家資格フレームワーク National Qualifications Framework）の制度が整備されてきました。ドイツも地域に根付いた職業教育機関があり、マイスター制度が定着しています。そのような背景があり、EUに加盟する28か国で共通する高等教育の資格枠組みを作ろうということからEQF（欧州資格枠組み European Qualifications Framework）という制度が2008年にできました。これは、**学位と職業教育のランクを平行にするという枠組み**です。そして、どこの国で働いたとしても、これまで受けてきた教育内容や資格を対等に評価し、保証するという考え方です。

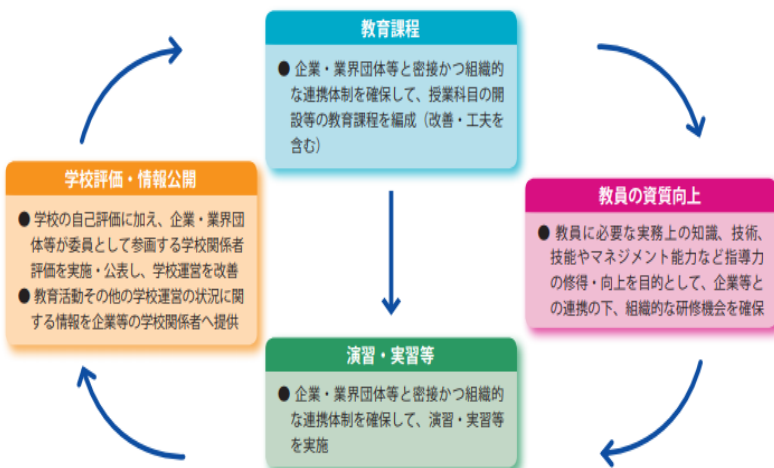
そういったEU諸国の状況を見て、全国専修学校各種学校総連合会では、日本でもNQFやEQFの制度を参考にしながら、職業教育の教育改革をすべきであると国に働きかけ、結果として「職業実践専門課程」の認定制度ができていきました。

### 「職業実践専門課程」における職業教育の特徴

「職業実践専門課程」では、企業や業界団体等との連携が義務付けられています。企業は常にイノベーションをしていかないと生き残れないという現実があります。職業教育においては、そのような社会変化やイノベーションの過程を学び、学生自らが新しい分野の開発をしていく力を身に付けることが必要です。実践教育に力を入れる、リアリティのある教育をしていくという部分が大きな特徴といえるでしょう。

企業等の変革や社会情勢と連動した職業教育にしなければならない、入社後に自社だけでスタッフ養成をしているのでは、グローバル化社会の中では国際競争に勝て

### ＜教育活動の流れのイメージ＞



ないということが背景にあります。このようなことも踏まえて教育に取り組むことが、「職業実践専門課程」の特色といえます。企業に介入してもらい教育評価を可視化することや「教育課程編成委員会」によるカリキュラムの改善も質保証のための具体的な実践例としてあげられます。

### 「職業実践専門課程」における教員の役割は

企業や業界団体等と連携した職業教育ということがポイントになるので、教員は常に社会の動向や企業等のイノベーションの過程を学び取り、新しい知識や技術を学生に伝えていかなければなりません。

「先生」とは「先を生きる」と書きます。人々の先を生きる努力をしない人は先生とは言いません。教員の背中を見て、学生はついていきます。常に学生の先頭に立ち、リアルな実践教育を学び続ける、そういう先生であり続けていただきたい。イノベーションを繰り返して起こる社会の進歩のサイクルモデルを、共に学びあっていくのが学校だと考えています。

### 情報公開の意義・目的

「職業実践専門課程」の認定条件のひとつとして、学校の教育内容や目標、計画、教育の成果や財務状況など学校運営情報を公開することが義務付けられています。

学校というのは公益法人であるため、学校教育の中身を学生や社会に情報開示するという社会的義務があります。学校の長所・短所含め、どこに特徴があり課題があるのか、立体的に見える化していくということが求められています。情報開示をしながら学校が互いに向上（相互向上・相互発展）していくことも大切でしょう。

そういう意味では、PRの仕方も工夫しなければならないと思います。きちんと情報開示し、そのための工夫がされている学校は学生募集もうまくいっているのではないのでしょうか。しっかりと外に向けてアピールする努力も必要でしょう。

### 「職業実践専門課程」の意義とは

職業教育が高等教育として社会的に認められることで、専門学校に通う学生にもきちんと教育保証ができるようになると思います。また、日本の職業教育を世界、特にアジアに広げるといった役割が日本にはあると考えます。アジアの教育立国として役割を果たし、グローバル化社会で活躍できる実践的な能力を持った人を養成をしていくためにも、職業教育に期待されることはとても大きいでしょう。

（理事長談）

報告

敬心学園 第16回職業教育研究集会（旧学術研究会）

兼 第10回 公開研究会 開催報告

職業教育の豊かな可能性を探る

～特に高等教育における～

7月28日 参加者総数170名と盛況！

前日の台風の影響もなく、さわやかな青空のもと開催された本会。開会挨拶では小林光俊敬心学園理事長より、グローバル化社会の中で、専門学校が今後いかに職業教育を発展させ、高度な専門職業人を養成していくか考える機会として頂きたいとの投げかけがありました。

たくさんのご参加、ご発表ありがとうございました。当日の講演、分科会・ポスター発表の内容をご報告いたします。

※2講演の全スライドは次号の「敬心・研究ジャーナル」第3巻第2号（2019.12月末発行）に掲載予定です。



学校法人先端教育機構 学監 川山 竜二 氏 講演

『専門職教育をはじめから丁寧に

— 職業教育と大学 —』



社会学者である川山竜二先生は、「知と社会」、「プロフェッショナル論」、「社会システム論」等をご専門とされています。学問の体系を「学問的知見」と「反省理論（＝実践知）」のサイクルとして定義づける科学システムを提唱され、

現在は、「社会動向と知の関係性」から専門職大学、実務家教員養成の制度設計に関する研究・助言も多数行っております。

今回は標題のテーマでご講演頂きました。

高等教育と職業教育をとりまく環境について

2006年に全文改正された教育基本法や第3期教育振興基本計画（2018～2022年度）においては職業教育に関連する教育目標や方針が入っている。これらを踏まえ、専門職大学の創設、リカレント教育の拡充、そしてリカレント教育や職業教育を学術教員とともに担っていく実務家教員の養成の3点が、高等教育における実践的な職業教育推進の焦点である。リカレント教育や職業教育の拡充が必要と言われ始めた理由は、人生100年時代が当たり前になり、社会における知識の在り方が変わってきたからである。それを踏まえて、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」でも、教育後のアウトカムまでを求めるといことが趣旨になっている。これらの中で職業教育がどうあるべきかを考えていかなければならない。

地方創生と職業教育も密接につながっている。地域に即した職業教育の推進が求められており、専門学校の高度化

と地域課題や産業界のニーズに即した専門教育プログラムの開発、そのための拠点づくりが重要である。

はじめから丁寧に ——— 職業教育と高等教育

大学教育の歴史を紐解いていくと、大学ははじめ法曹家、医者、聖職者という専門職を養成するための教育機関であった。専門職の要件は、クライアントが専門的な知識を持った専門家に対して委託するという契約関係が成立しているかがポイント。専門職は、可能的専門職、準専門職、新専門職、確立専門職と分類できる（下記スライド参照）。

2019年4月に創設された専門職大学は、豊かな創造力を養成し、高度な実践力を持った「専門職業人」を養成する高等教育機関である。そこでは、専門知の体系化が求められている。

また、専門職業人を養成するとともに、可能的専門職・準専門職を専門職化するという

社会的機能も持っている。今後は実践現場からの知識をいかに体系化し、伝達していくかが重要。専門職大学が養成する「専門職業人」とは、専門的知識とスキルを身につけ、価値創造（＝クライアントの課題解決）ができなければならない。

職業教育と高等教育のゆくえ

現代は知識基盤社会といわれており、知識が最大の資源である。知識の変化も激しく、常に新たな知識を習得し続ける必要がある（ラーニング・ソサエティの台頭）。教育

2. はじめからいねいに——専門職とは③

専門職化戦略のために

- I. 可能的専門職 (The would-be professions)  
将来さらに高度の専門職になる可能性があるが、現段階では自ら専門職と宣伝せざるをえない。
- II. 準専門職 (The semi-professions)  
専門職としての基盤があるが、やや不安定であるもの
- III. 新専門職 (The new professions)  
近年、急速に専門職の条件を整えてきた専門職で、自然科学や社会科学の技術的側面に立脚
- IV. 確立専門職 (The established professions)  
古典的プロフェッショナル

© 2019 Ryoji KAWAYAMA All Right. 20

機関には、教えている内容についてアウトプット・アウトカムが設定できているか、ということが問われてくる。知識に知識をどう応用するか、という視点が重要であり、そのためにはメタ（＝俯瞰）化戦略が必要である。知識基盤社会で活躍するという観点からいえば、リカレント教育においては、「ナレッジ・マネジメント」や学び方を設計する「ラーニング・マネジメント」が極めて重要であろう。

メタ化の戦略化とは、知識を管理する能力を養成する（実践の場において体系化されていない知見を整理する能力）、そして知識を普及・活用させていく能力を養成する（新たな知識を社会や組織に実装させ活用させること）ということ。知識は絶えず生産されているため、知識のフォロワーではなく、リーダーになる能力を学ぶ必要がある。自ら知識を作り出せる能力を持つ、それが高度専門職であろう。

情報化社会の中ではインターネット上で断片的な専門知識を得ることができるため、専門知識を持っているだけでは専門職はすたれていく。今後、専門職が目指していかなければならないのは、自分自身の専門的知識がどこに位置

づけられ、どのように活用できるのかを理解できること、知見から何を活用できるのかを理解していること、専門知識を活用して新しい価値創造ができること、専門知識が正しく活用されてきているか判断することであろう。

専門学校にせよ専門職大学にせよ、専門職業人の養成のためには、専門知識を教えるだけでなく、専門知識がどのように位置づけられるのか、そしてどのように社会に展開・活用できるのかというメタ（俯瞰）的な知識が必要不可欠になるだろう。

4. ゆくえ——プロフェッショナルの未来

AI台頭時代の専門職

すでに、われわれはインターネット上で断片的な専門知識をえることができる

ただ専門知識を知っている専門職は廃れる

- ① 専門知識を体系のなかで位置付け、社会での活用方法がわかる
- ② 専門知識を活用して新たな価値創造ができる
- ③ もちろん専門知識が正しく活用されているかも判断すること

知識を扱うものはみなメタ化の戦略が必要なのではないだろうか

© 2019 Revo KUMAMOTO All Right.

講演後は活発な質疑応答が交わされ、高等教育や職業教育の今後や、高等教育機関として今後必要とされる知見や教育の在り方について多くの学びを得ることができました。

分科会・ポスター発表 紹介

今年度は複数の発表が聴けるよう2サイクルで実施し、参加者からは概ね好評でした。本学の卒業生も、卒後の現場実践における取組みについて報告してくれました。



分科会

【職業教育（卒前卒後教育など）】座長 原 葉子 先生

- ◆ 『ソーシャルワーカーの成長を支えるグループスーパービジョンー苦しみやつまずきを乗り越えるためにー』に関する考察ー支え合い・学び合う卒後教育（高橋明美）
- ◆ 既卒者に向けた学習支援についての報告（亀谷文人）
- ◆ 社会福祉士国家試験の不合格者のその後ー合格への支援へ向けて（東 康祐）

【学生指導①】座長 井口佳晴 先生

- ◆ 中途退学者のコンピテンシーー中途退学者と卒業者の行動特性の差ー（有本邦洋）
- ◆ 中退率軽減に向けた過去のデータ分析（重國宏次）
- ◆ 中途退学防止のためのHyper-QU の活用～学生のいい学びを目指して～（土手延恭ほか）

【学生指導②／授業技術】座長 遠藤久美子 先生

- ◆ 高等教育における「低意欲学生」の傾向 把握と改善案の検討・第2報（町田志樹）
- ◆ 学びの成果と自己肯定感に関する研究（宮嶋 淳）
- ◆ 『教科目連携』の発案と試行ー「心理」「福祉」分野を例としてー（東郷結香）

【企業・地域連携教育(実習教育など)】座長 馬目雪枝 先生

- ◆ 介護老人保健施設における歯科保健活動の取り組みー訪問歯科・口腔衛生指導ー（浮谷英邦ほか）
- ◆ 初年次学生を学校と企業・法人が“ともに育てる”ー「保育現場での活動」を実施する際の学校と企業・法人等との具体的な取り決めについてー（阿久津撰ほか）
- ◆ 精神障害者雇用と業務支援（永吉和成）

【学習内容①（柔道整復師・鍼灸師、保育士・幼稚園教諭）】座長 鴨田佳典 先生

- ◆ 海外研修と学術交流についての報告  
中国上海中医薬大学との連携10年間の歩み（青木春美ほか）
- ◆ 第3回フロリダトレーナー研修  
～University of Central Florida・IMG ACADEMYとの研修～（大隅祐輝ほか）
- ◆ ちょっと便利がたくさんある、専門学校図書室を目指してー情報センター機能向上への取り組み（鈴木八重子ほか）

【学習内容②（保育士・幼稚園教諭）】座長 中西和子 先生

- ◆ 保育者養成課程科目としての日本国憲法の再定義（吉田直哉ほか）
- ◆ 神道系保育所・幼稚園等における保育環境としての「森」での保育者の役割（安部高太郎ほか）
- ◆ カトリック系幼稚園の教育理念のなかのモンテッソーリ教育をめぐる語り（鈴木康弘ほか）



ポスター発表 進行 水引貴子 先生

- ◆ 専門学生の生活習慣と学習態度（姿勢保持能力）の現状（佐々木清子ほか）
- ◆ 臨床実習に向けた実践的演習の報告  
演習後の学生に対する意識調査（阿部英人）
- ◆ 放課後デイサービスでの集団音楽療法 ―音楽がA君にもたらした変化―（吉浦瑞希ほか）
- ◆ A苑認知症対応型デイサービスでの集団音楽療法― B氏が活動時間を持続できる個別介入について―（植松優香ほか）



康語軒 金恩京氏 講演

『認知症介護教育について－中国現場の実情－』

内科医・医学博士である金恩京先生は、1996年に日本医科大学への留学をきっかけに来日、日本の高齢者事業の運営にも携わってこられました。2011年に中国北京に帰国後、2014年に北京康語軒を設立、2017年にスウェーデン式介護を導入した中国初の認知症専門有料老人ホームを開設されました。

今回は、中国初の認知症専門有料老人ホームを運営するにあたり苦労されたことやそこで感じ取られた様々な課題、日本と中国との差異、特にスタッフ教育や施設づくりの工夫等についてご講演頂きました。

中国においても高齢化は深刻な問題

中国の65歳以上の高齢者人口は1億4千万人に達しており、平均寿命も延びている。421社会（4人の親、2人の夫婦、1人の子どもで構成される）の中で、どのように親の介護をしていくかということは大きな課題である。そのような中、中国では高齢者施設が激増している。施設を作らないと間に合わない状況である一方、施設の空床率も目立つ。日本のように介護保険のような制度が整備されておらず、多くは全額自己負担で入らなければいけないため、入所できない高齢者も多い。また、中国においてはこれまで、親の面倒は子どもに託す、子どもも親を施設に入れるのは親不孝という昔からの考え方もあり、よほど何かない限り施設に入れない。高齢者も家族も困っているけれど、なかなかマッチングしないというのが中国の現実である。

一番の課題はスタッフ集めと教育

中国では職業教育は整理されておらず、専門教育を受けても実際の介護現場には就職したがる傾向がある。また、知識はあっても実際に実践力や思考力が欠けているようなことがある。一方で地方の出稼ぎ労働者を採用した場合は生活能力そのものが高くないため、そこから教育を始



めなければならぬ現状があった。入職後の再教育の必要性を痛感し、苦心してスタッフ教育に取り組んできた。

具体的には、理念を繰り返し教育する、また積極的な資格取得や自主学習の機会を作り、その成果を人事評価に取り

康語軒が思う介護人材の画像

“五力”人材：観察力・思考力・想像力・執行力・行動力

- 1 専門知識有する
- 2 感受性の高い人
- 3 生活能力は高い
- 4 コミュニケーション能力
- 5 チームワーク
- 6 多様な才能

り入れる中で、少しずつスタッフの学ぶ意欲やチームワーク、知識・技術が向上してきた。康語軒では介護職等の専門職だけで

なく、経理や設備管理のスタッフも高齢者や認知症のことについて継続的に学ぶ機会がある。誰でもいつでもどこでも、目の前の高齢者のケアにあたることのできるスタッフ養成を行っている。

康語軒の高齢者ケアの特色

スウェーデン式の認知症介護を導入し、①ソフトから考える建築設計、②Unit ケア、③パーソンセンタードケア、④コンタクトパーソン制度、⑤認知症ケア技術と方法（フンネ音楽療法、鍼灸治療、BPSDレジストリー）、⑥医療連携、⑦OJT研修、⑧社会奉仕や普及活動・国内外の企業等との連携事業、⑨家族支援 などを実践。導入にあたっては科学的根拠を意識し、スタッフがその根拠をきちんと学べる研修の仕組みを確立している。スウェーデンのある医学博士は『徹底的な認知症治療がない今、優れた介護は最善の治療である』と述べている。我々も「優れた介護」を提供できるよう、日々努力していきたい。

金先生の講演では大変多くの刺激をいただくことができました。これからの専門職の学びは国際的視野に立ったものでなければならぬことを実感する内容でした。


 特集  
連載

## 介護教育と方法論【介護ロボットへの対応－2－】

株式会社 健康データハウス 代表取締役  
 聖隷クリストファー大学 教授  
 大川井 宏明  
 (職業教育研究開発センター 特別研究員)

### 1. 道具の歴史は人類の生き方の歴史を教えてください

前号NL第9号 p.4-5で、道具は自分の代わりにやってもらうという概念はもたず、人の力量ではできないが何とかしてできるようにしたいという、自他が共有する願望を具現化したものである、と述べた。武士道、茶道等を例に、その道具が、生き方、あり方、創造、畏敬を反映させてきたことも併せて述べた。

ここで冷蔵庫、包丁まな板、鍋の例を加える。いずれも冷やすこと、切ること、煮炊きは素手ではできないことから「代わり」ではなく道具だからこそ私たちの「できない」願望をかなえている。

さて、ここでは道具が果たしている役割についてもう一步考察を深めるために次の3例だけ挙げてみる。

① 意思を表現し他人に伝える手段・・楽器、筆とキャンバス、ペンと紙、包丁とまな板、PCと周辺機器、踊りの衣装等。

② 行動範囲を広げる手段・・自転車、自動車等。

この二つの例は目的を果たすため、換言すると願望を満たすため、鍛錬する過程をいとわないという特徴をもつ。楽器や自動車は高い講習料を払ってまでも練習し、自転車は転倒し怪我をしてまでも練習した経験をもつ人は多いであろう。併せて、道具はやる気、士気を高揚させたり、使うところを他人に見てもらいたい、他人もその技を見たいと思わせたりする機能ももつ。さらにはこれらの道具によって新たな職業も生んできた。職業になるということはその道具を求める人が多々いることを意味し、前号で述べたように共有する願望を充たす意味をもつ。

③ ことばに反映させた道具・・ペンをとる、筆をとる、采配をふるう、十手を預かる、軍配が上がる、船乗り、黒帯等。

これは道具の使用者、道具の使用法に対する信頼や尊敬を表現しているのではないか。

一方、食品産業や料理店等で「手作り」を強調して

いる例が多々ある。これは製造工程に機械化、自動化が充実してきたため商品を安く売ることが当然となった時代だからこそ使うことばであろう。そこに観えたのは作り手と買手の間の心理的な距離感をなくすことである。具体的には工程をすべて手作業で行うのではなく、客に観てもらいたい、聞いてもらいたい職人技の場面を強調しているのである。これは道具が普及した結果生じた心の余裕だと考えられる。

### 2. 介護職の道具や介護ロボットに対する考え方、その姿勢

ここで介護の話に戻る。介護ロボットは現在の時点では介護現場に馴染んでいないとはいえない。しかし、前号冒頭に記載したように、いまは関心の有無を問うのではなく取り組み方を考える時期にある。その理由は介護職がボランティアではなく、サービスを担う職業（プロフェッショナル）であるからだ。ここでいうサービスは産業である。そこには技、知識、思想、目的、そしてプライドを含めた「持続」という概念がある。従事者は一方では持続する課題（テーマ）を常に考え、守り、発展させ、他方では従事することをプライドをもって持続させ、サービスの質向上を心掛けてきた。介護職も同様に、持続性をもつようさらに工夫することが望まれる。

### 3. 「いいものはないかな」から「いいものをつくろう」へ

介護職が介護用具(道具)の展示会等に行く場合、どのような視点で観るか。「いいものはないかな」という視点ではないだろうか。行くこと自体が積極性の表れであり、展示担当者や他の見学者と会話を交わすことはさらに積極的である。しかし、結果として特にいいものはなかった、興味をもつ物



があったが値段が高すぎる、という感想をもつことが大多数ではないだろうか。日本のエンジニア（工学技術者）の技術力は世界最高のレベルにあるにもかかわらず、である。

その原因は介護職の願望が、エンジニアに十分伝わらないため適切な設計ができないことにある。そこで介護職自らが設計すること、すなわち「いいものをつくろう」に転換することが強く望まれるのだ。では図1を使用して、産業一般における思考手順の例をヒントに介護をいかなる手順で進めたらよいか考えてみる。

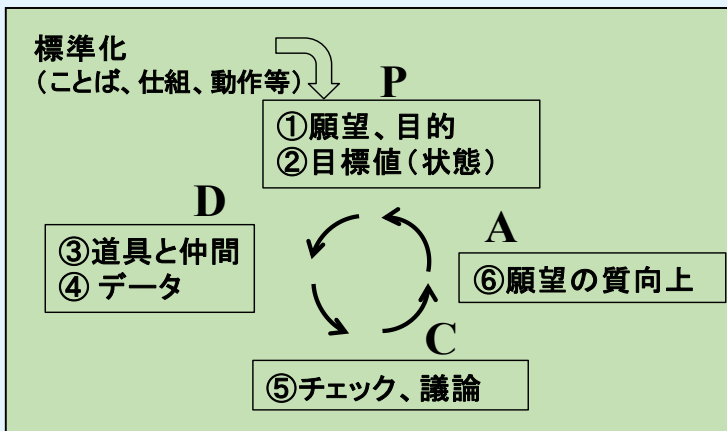


図1 道具をつくる一般的な手順（PDCAサイクル）

介護職に求められる設計の中身は道具の形状等の詳細ではなく、介護ロボット等の道具を使用して何をやりたいか、どこまで実現したいか、被介護者にどうなってほしいのか等の願望、目的、目標を極力明確にすることである（図中、P：Plan）

ここまで到達すると自らのアイデアが具体的になり、同業者との会話が具体的になり、さらに効果的なのは異業種、とくにエンジニアと会話ができるようになることである。この手順を経たならばエンジニアが作った道具は必ず具体的になっている。次にこれを使用して、さらにデータを採る、という実践段階に入る（D：Do）。

このデータにより同業者や他の職種の人と議論することができるようになる。このとき自分のアイデアの良否がわかり、かつ、自らの技術的な成長を育むことにもなる（C：Check）。

次に、先のアイデアを改良して願望の質を高め、目標をより具体的に（A：Action）。

以上の循環により、①客観化、②サービスの質向上、③プライドと達成感という効果を期待できる。この効果は介護職、被介護者の双方の士気高揚を促すことにもなるのだ。

この循環の中身には道具の主体が介護者である場合と被介護者である場合がある。とくに後者の場合、被介護者が道具を使用したことで好奇心をもち、他人にも伝えたい、という気持ちをもたせるような道具やロボットでありたい。（なお、図1のサイクルに乗せる方法と左上の標準化については次号で述べる。）

#### 4. 人類史上最大の発明と考えられる土器

道具に係る考え方の一つを、本号本課の最後に述べてみる。前号では「介護職に期待すること、そして夢」として「心の痛みと喜びの両極端を知る最高の職種」と述べた。

両極端とは両方向の最終段であるから、一方は心の活動の停止、社会的生命の死、他方は心の躍動と社会的生命の持続と、ここでは仮に表現しておく。

ここで一旦歴史をたどってみると、土器の発明がある。それは700万年の人類史の中で4万年前に発明したとされている。生命を維持するためには必須である水の保存を、土器の発明により実現した。このことで生活様式を一変させた。700万年のスケールで観れば、最近ようやく実現させたことになるが、人類史上で最大の発明だと著者は考えている。これだけ価値をもつ物だからこそ畏敬と尊敬を模様で表現し、その後も世界中で壺、皿等を高貴な美術品として扱い、現在に至っているであろう。

一方、介護職が担当する分野の一部は、いわば心が水枯れの状態になっていると表現し得る。そこで、いま心の水枯れを防ぐ土器、心の水溜を発明する時期に來た。神様が日本にこの心の土器を生み出すよう課題（テーマ）を与えたような気がしてならない。心の水を貯める物、心の土器とは何か。著者は解答をもっていない。介護職こそ、この課題に対する一番適切な職業人、産業人たり得るのではないか。

連載

第2回 アクティブ・ラーニングを考える

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター  
センター長 川廷 宗之

学習主体は学生 教員はファシリテーター

知識伝承型教員は絶滅危惧種と言いながら、実際には生き残っているのではないか、というのが、前回の結末。ではなぜ生き残っているのだろうかというのが今回のテーマ。

実は教員として生き残ることだけを考えれば、生き残るのはそう難しくはない。どうすれば良いか。学生たちに自分の力量を判断する基準（評価や成績の基準）を与えなければ（情報の占有）よいのである（下の図参照）。こうなると学生は判断できないので、黙って教員のいうことを聞くしかない。しかし、基準が分からなければ努力のしようもないので、学習への意欲は湧かない。まあ先生が何とかしてくれるだろう、適当にやればいいやと甘えている。教員自身も、手抜きをしても学生は何も言わないのだからと甘えていて、求められている水準の授業をやらない。お互いに居心地は悪くないが、勿論、力量はほとんど身につかない。

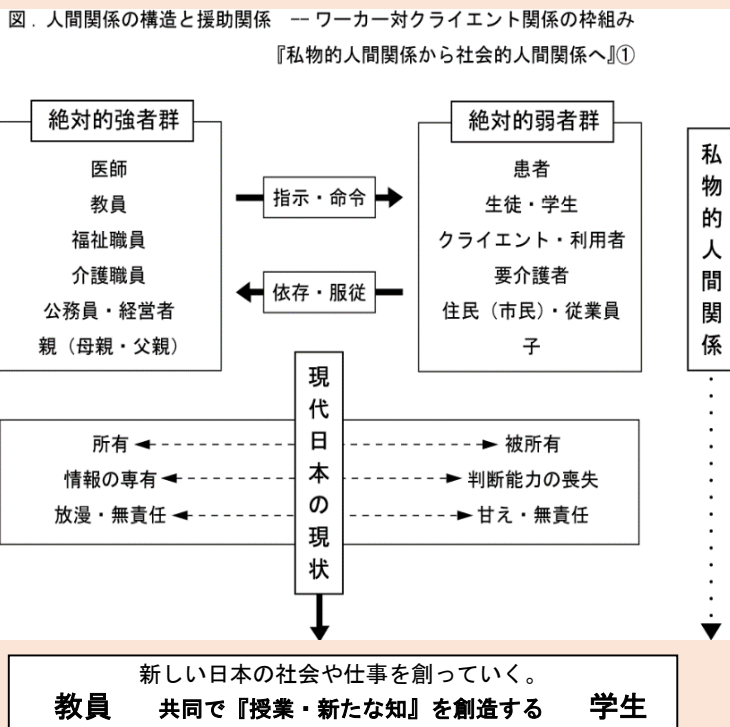
これでは困ると、ここ数年文部科学省はシラバスに成績基準を明示するよう強く求めている。しかし

残念ながら、学習内容の到達目標や評価基準が具体的に書かれている（何十年も前から当たり前になっている米国などの高等教育機関で見るとような）シラバスにお目にかかることは、日本では極めて少ない。

しかし、困ることもある。それは、高等教育機関が乱立（志願者の数以上の定員枠がある）し、また、生きていくにはそれなりの力量がはっきり求められる状況下で、かつ学業に割く資金力も低下する中で、そういう教員が多い学校への入学者はどんどん減る傾向にある。力量が身につかないのであれば、わざわざ学校に行くまでもないのは当たり前である。資金に余裕があり、それほどの力量も求められなかった（バブル）時代は、卒業証書さえあればという入学者は多くいたのであるが…。

つまり、困る事というのは、こういう教員が多い学校は、学校そのものの存続が危ういということである。というわけで、教員として生き残ろうと考える人は、自己の教育能力を高めるべく必死で頑張り始めている。故に、大学教育学会などの高等教育機関【専門学校を含む】の教育研究団体の参加者はうなぎのぼりだし、教員の研修も花盛りである。

そこで何を学ぶのか。まさにアクティブラーニングである。しかし、アクティブラーニングを展開するのは、そう簡単なことではない。その理由は、「教育観」自体の変革を求められるからである。どういふ変革なのか、次回から触れることにしよう。



作図：筆者





授業展開の  
**Tips**
**【受講学生を集中させる、眠らせないためのスマートな進め方】**

一方的な講義はもうしない！ インタラクティブ（双方向）な授業展開で、学生とともに『**知の創造（発見）**』をするという姿勢で臨む。

**適用できる授業**

- 基本的にはすべての科目（必修・選択問わず）に適用可能
- 適用例としては、学生数 約20名～約130名まで多様

**実践例**
**■ 授業開始は学生が静かになってから**

学生が静かになるまで授業を始めない。授業の途中でも同じ対応をする。

⇒うるさいのに始めてしまうと、授業を聞かなくても大丈夫だという信号を送っていることになる。

**■ 教室内を歩き回ろう**

教室が大きい（4～50人以上）場合は、（問題学生が多そうな場所を重点的に）室内を歩き回り、学生の様子を観察しながら講義を続けるのも有効。

⇒教員がまわってくるとおしゃべりはできないし、内職も止まる。

居眠りしている学生にそれとなく注意もできる。

**■ 発問の機会を増やそう**

1コマで3件くらいを目安に発問する。隣近所の2～3人1組で予めミニ討議をさせてから指名すると必ず発言が返ってくる。回答に対しては必ず一度褒めて、授業のストーリーに戻る。

**■ 授業を聞いていないと困る仕掛けを毎回作る**

例えば・・・リアクションペーパーに当日授業の要約を書かせる  
 内容に関するミニテストを行う 等

**■ 単位の認定基準は厳正に！**

「あの先生の授業はきちんと取り組まないと危ない…」という評判を流布させる。

初回授業で、そういう評判があると言ってしまうのも一つ。

**■ 初回授業でのルール提示がポイント★**

授業の初回で詳細なシラバス（授業用のものとは別に）を提示して、その中で私語に対する方針を明示しておく。学生にとっての授業内容の重要性や詳細な内容と同時に、評価基準も細かく掲載し、私語をしている暇がないというガイダンスをする。

その他、VTRやPPの活用も一つの方法だが、導入や事後のまとめ方の工夫をしないと学生が寝てしまうという問題がある。特にPPを使った授業はインタラクティブな授業になりにくいので注意！

学生は・・・この先生は、**授業中突然質問してくる！ 近くにくる！**というだけで緊張感を持つようになる。「ちゃんと授業を聞いていなければいけない先生」と思ってもらうことが第一歩。



報告

インドネシア初の国家介護資格「介護エントリーレベル」創設に寄与

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 杵淵 洋美

技能実習生の介護認定資格創設

職業教育研究開発センターでは、敬心学園が受託した文部科学省委託「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業『国際通用性と地域性を踏まえた介護人材養成プログラムのモジュール開発プロジェクト』で開発したエントリーレベルプログラム(介護の初心者向けプログラム)をベースに技能実習生用の学修プログラムを開発し、このたび、このプログラムを修了し認定試験に合格した者に、インドネシア初の介護国家資格が与えられることになった。

プログラムは全14セッションで構成され、すべてのセッションにおいて、筆記試験と実技試験からなる資格認定試験を実施し(一部セッションは筆記試験のみ)、基準点を満たした者が合格となる。

技能実習生候補者を指導する「介護技能実習生トレーナー」の研修実施についてはすでにレポートしているが(NL第7号に掲載)、このトレーナーによる指導を受け、プログラムを修了し、資格認定試験に合格するとインドネシア国家資格庁公認のライセンス「Kaigo Entry Level」が授与される。インドネシアにおいては初の介護国家資格である。

介護職種において技能実習生を受け入れる要件として、1. 介護施設等での実務経験、2. 看護学校を卒業または看護資格の所有、3. 政府による介護士認定があるが、「Kaigo Entry Level」はこの3に該当する。

このライセンス制度は、技能実習生の質保証および技能実習参加への門戸拡大(=参加者のすそ野拡大)に繋がることから、我が国にも大きなメリットが期待される。

提携企業による「介護ライセンスセンター(KLC)」の設立

そしてこのたび、敬心学園がプログラムを提供した企業であるアウトソーシング(東京都千代田区)社のインドネシア法人、OSセルナジャヤインドネシアにより、7月9日、インドネシア初となる介護資格検定機関「介護ライセンスセンター(KLC)」が開設され、弊学園の小林理事長が記念式典に参加した。

今後の展望

OSセルナジャヤ社とは、日本の初任者相当の「ベーシックレベル」や現場リーダー相当の「アドバンスレベル」の資格認定も検討している。また職業教育研究開発センターとしては、アジアの他の国でもインドネシアと同様の展開を行うことを検討している。

<写真はインドネシアで報道された新聞記事>



## 紹介

## 日本医学柔整鍼灸専門学校の強み 提携10周年をむかえる上海中医薬大学での研修等

日本医学柔整鍼灸専門学校 鍼灸学科長 青木 春美

### リピーター続出の海外研修

2009年から上海中医薬大学及び附属病院での研修を開始し、今年で10周年を迎えた。

研修先として同大学と提携した理由は、主に大学の日本語対応力、付属病院の設備と患者数上海の気候・治安の良さなどである。

研修時期は毎年3月であり、東京とほぼ同じ気温かつ非常に過ごしやすい気候である。そのため、研修中に体調を崩す学生はほとんどいない。また、治安も良いため、学生の自由行動の時間を設けることが可能になっている。

研修は、午前は大学の附属病院で現場研修を行い、午後は大学での講義や実技を受講する形式をとっており、実践と理論の往還をする。

午前中の附属病院での研修では、日本語が話せる医師が説明を担当するため、学生たちに鍼灸の専門用語を用いて説明ができる。従って、非常に分かりやすいためになると好評である。なお、研修先となる大学附属病院は3院あり、学生は各グループに振り分けられ、順番に研修先を回る。そのため、各病院で様々な症例について、それぞれの医師から研修を受けることができる。因みに、病院の設備の充実と患者数は上海トップである。

午後は大学で、漢方・推拿・美容・養生・鍼灸実技等を受講する。講義に関しては、毎年内容を変更・ブラッシュアップすることにより、学生が何度参加しても飽きない、有意義な研修になるよう大学の教授陣と工夫している。結果、卒業してからも参加する者もあり、最多参加回数は5回を数える。

また、上海は、大都市でありながら、歴史的な街もあり、観光スポットや飲食店も充実している。そのため研修以外の点でも学生の満足度が高い。結果、2020年の研修申込者数は過去最高の32名となっている。



### 10周年式典の開催

2019年に提携10周年を迎え、新たな展開に向けて、教育連携協定書の調印式と記念式典を開催した。



### 連携強化と今後の展望

10年間で延べ200名の学生が研修に参加し、参加者は右肩上がりであるが、研修以外での連携も強化している。本校奥田校長や青木が上海中医薬大学創立60周年記念式典で特別講義を開催したり、毎年9月に大学の教授陣が本校に来校し、特別授業を開催している。また、本校の教員が約2週間、大学の附属病院で研修を受講し、本場中国で習った技術を学生達に還元し、教育の質向上に努めている。

今後は、卒業生向けの海外研修や研修以外の学術面での交流も盛んにしていきたいと考えている。引き続き、現場で活躍できる医療人を育成すべく、研修を含め様々なコンテンツを学生に提供していくよう努めたい。

告知

## 第11回公開研究会 開催のお知らせ



# 「違う」って面白い！！

## ～世代、国境を越えた介護・保育の実践～

ダイバーシティ（外国人職員・外国人利用者・異世代）という観点から、介護・保育分野における共通の課題、介護・保育の特有の課題や、先駆的な取り組み事例（成功事例）について、全国で面白い実践を行っている方をシンポジストとしてお招きします。多世代・多文化社会におけるの介護・保育の専門性とはなにか、また職員の育成はどうしたら良いのかということについて一緒に考えてみませんか？

日 時：2019年**12月8日（日）13：30～16：00**

場 所：**TAP高田馬場**（新宿区高田馬場1-31-18高田馬場センタービル3階）

※高田馬場駅戸山口から徒歩3分

シンポジスト：現在調整中

参加費：**無料**

定 員：60名（先着順）

申 込：**11月1日**よりメール・お電話にて受付開始。

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 担当 河野（かわの）・佐々木・藤井

Mail：[vetrdi-kensyu@keishin-group.jp](mailto:vetrdi-kensyu@keishin-group.jp) TEL：**03-3200-9074**

※お申込みの際は、①お名前 ②ご所属 ③連絡先 をお知らせください。



詳細は近日中に  
HPにてお知らせ  
いたします！

※なお、こちらは **文部科学省委託事業 2019年度【分野横断型リカレント教育プログラムの開発】** 事業の一環として行われる学習会を兼ねておりますため、今回は参加費無料となります。

### 今後の公開研究会の予定



#### ■ 第12回公開研究会

日時：2020年**2月15日（土）13：30～16：30**

場所：**TAP高田馬場**（東京都新宿区高田馬場1-31-18 高田馬場センタービル3階）

内容：専修学校教育における学生と地域との結びつきについて

#### ■ 第13回公開研究会

日時：2020年**3月8日（日）13：30～（予定）**

場所：未定

内容：ICTを活用した教育プログラムの開発について

詳細が決まり次第、順次  
HP等でご案内します

次号予告 2020年1月15日発行予定

<特集連載>【介護教育と方法論】介護ロボットへの対応 - 3 -

<連載> 第3回 アクティブ・ラーニングを考える

<報告> 第11回公開研究会 開催報告 ほか